

第8回『歎異抄』ワークショップ 参加者募集のご案内

大谷大学真宗総合研究所、The Centers for Japanese Studies and Buddhist Studies at the University of California, Berkeley、及び龍谷大学世界仏教文化研究センターが共催する、第8回目の『歎異抄』ワークショップに関してご案内します。このワークショップは、浄土真宗において中核的な聖典であり、近代日本において最もよく読まれた宗教書である『歎異抄』について、その近世・近代の解釈書を精読し考察するものです。

マーク・ブラム（カリフォルニア大学バークレー校教授）、嵩満也（龍谷大学教授）、マイケル・コンウェイ（大谷大学講師）がワークショップの指導に当たります。

このワークショップは、年2回（春にバークレー市、夏に京都。なお京都での開催は大谷大学と龍谷大学とが交互に開催する予定）、各3日の期間で開催することが予定されており、第7回目は2020年3月、バークレーにおいて開催された。その後、新型コロナウイルス感染症の流行により、ワークショップの開催は見合わせておりましたが、この度、第8回目のワークショップが、2022年8月6日（土）から8日（月）まで京都の大谷大学において開催されます。

ワークショップ全体は、『歎異抄』に関して近世・近代の日本において作られた解釈書（講録・講話）の読解を中心に構成され、その解釈の歴史が読み取れる詳細な注釈を加えた『歎異抄』の英文翻訳研究書を作成することを目的としています。そして、日本の宗教界と学界で種々に語られてきた『歎異抄』に関する広範な論説を検討し分析することによって、日本思想史におけるこの書の位置付けを明確にする英文論集の作成をも視野に入れてワークショップを進めております。

8月に開催される今回のワークショップでは江戸時代の解説書を中心に精読する予定です。対象は以下になります。

円智：	『歎異抄私記』（1662年）
寿国：	『歎異抄可笑記』（1740年）
香月院深励：	『歎異抄講義』（1801-8年）

日程：2022年8月6日（土）～8日（月）

場所：大谷大学（京都市北区小山上総町）

費用：参加費無し

形式：

このワークショップは、基本的に英語で行われ、日本語の使用は最小限になります。また、対象となるテキストは古文と近代日本語が中心であり、いくつか漢文と英語の資料も使用

します。上記の江戸期の注釈書を翻訳する部会が設けられ、翻訳作業および確認が行われます。

参加要件：

どなたでも御参加いただけますが、特に意欲ある大学院生を歓迎します。本企画を共催する3大学に所属する必要はありません。古文や近代日本語を読むことができ、仏教思想や文化に慣れ親しんでいる方、仏教に学問的関心を持ち、英語で議論に参加できる方であれば、国内外の大学院生を幅広く募集しています。

(新型コロナウイルス感染症のパンデミックを受けて、日本国政府が施行している入国規制により、海外からの参加が困難になる可能性があります。旅行の手配をする前に、必ず当方および居住地の日本国大使館・領事館に相談するようにお願いいたします。)

応募方法：

本プロジェクトは、一連のものとして継続されますが、参加の応募はワークショップ毎に行う必要があります。以前のワークショップに参加された方も、あらためて今回のワークショップにご応募ください。

応募方法は、ご自身の資格、応募動機、参加目的を説明した簡単な文章と履歴書をマイケル・コンウェイ (tannishoworkshop@sec.otani.ac.jp) まで電子メールでお送りください。国内からの参加応募締切は 2022年6月30日→2022年7月26日(火) になります。応募は電子メールのみです。

旅費補助について

遠方から参加する有望な大学院生を支援するため、限られた人数になりますが交通費・宿泊費の一部を補助します。

補助の必要性、本プロジェクトへの貢献の見込み等を基準に選考が行われますので、補助を希望される方は応募のメールにその旨を明記し、6月17日(金)までにご応募ください。

お問合せについて

本企画に関するご質問・問合せ等も上記のアドレスで受け付けています。

注意：新型コロナウイルス感染症の影響によって、旅行規制や集会規制が施行されることがあれば、ワークショップを中止せざるを得ない可能性もありますので、ご了承くださいませよう、お願いいたします。